

# 平成29・30年度 佐世保市教育委員会指定 授業改善研究

## 《研究主題》

基礎学力の向上を目指した授業のユニバーサルデザイン化

～特別な教育的支援の視点をもった支援の工夫～



研究発表：平成31年 2月20日（水）

佐世保市立吉井中学校

## 1 授業改善に向けた研究の推進

### (1) 研究主題

- 研究主題：基礎学力の向上を目指した授業のユニバーサルデザイン化
- 副主題：特別な教育的援の視点をもった支援の工夫



佐世保市立吉井中学校全景

### (2) 研究主題設定の理由

平成24年12月実施の文部科学省初等中等教育局特別支援教育課調査によると、「知的発達に遅れはないものの学習面・行動面で著しい困難を示す児童生徒」の割合は、小学校7.7%、中学校4.0%存在している、とある。本校でも知的発達に遅れはないものの学習面・行動面で著しい困難を示す児童生徒が存在しているであろうと考え、まずは実態把握をすることとした。

教員へのアンケート調査を実施し、通常学級において知的発達に遅れはないものの、学習面・行動面で著しい困難を示す生徒を抽出したところ、予想より多くの生徒が挙げられた。教員が日常、肌で感じているものはあったが、「授業中に落ち着かない」「授業に集中できない」「他者とのコミュニケーションをとれない」等、様々な状況下で困難を示す生徒の実態が浮き彫りになった。このような生徒は、学習面や行動面に様々な課題を抱えているため、一人一人の見立てを行い、その教育的ニーズに応じた支援が求められている。

本校では、まず「開発的生徒指導」で生徒に寄り添い、心を育てることに取り組んだ。その指導が効を奏し、生徒の大部分が落ち着いてきた。しかし、まだ落ち着かない生徒も存在するとともに、特別な教育的支援が必要な生徒も一定数存在する状況が見られた。そこで、授業に落ち着いて参加できる授業改善が急務であると考え、学習面・行動面で著しい困難を示す生徒でも、取り組みやすい授業を提供するユニバーサルデザイン（以下「UD」）の視点を取り入れた授業を行うことで、学力の向上を目指す結論に達した。

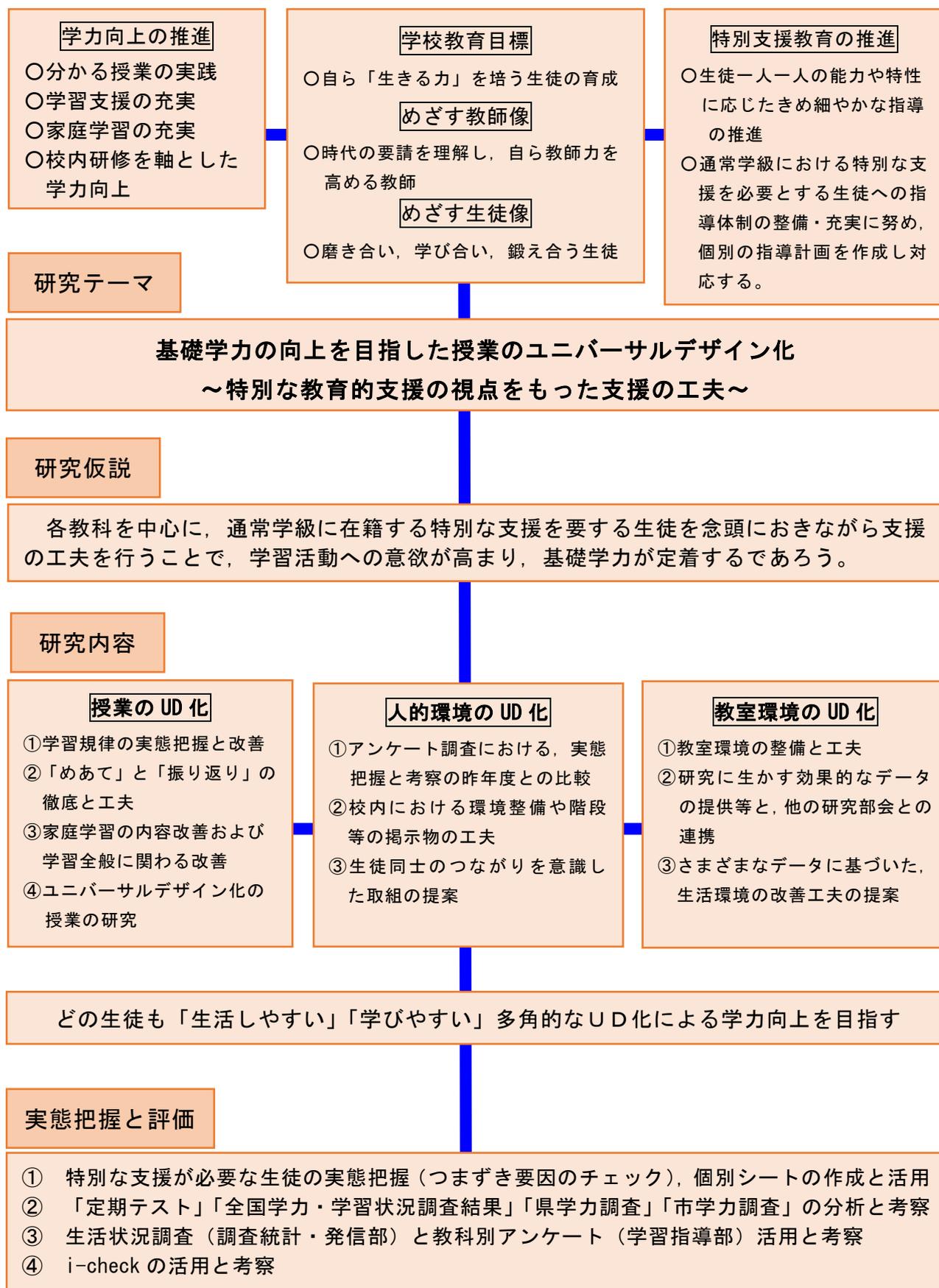
UDの視点を取り入れた授業スタイルについて、先進的な実践や有識者等から学び、その蓄積を本校の実態に即した独自の授業スタイルの確立に生かすこと、また、ひいては基礎学力の向上につなげることを目的に本研究主題を設定した。



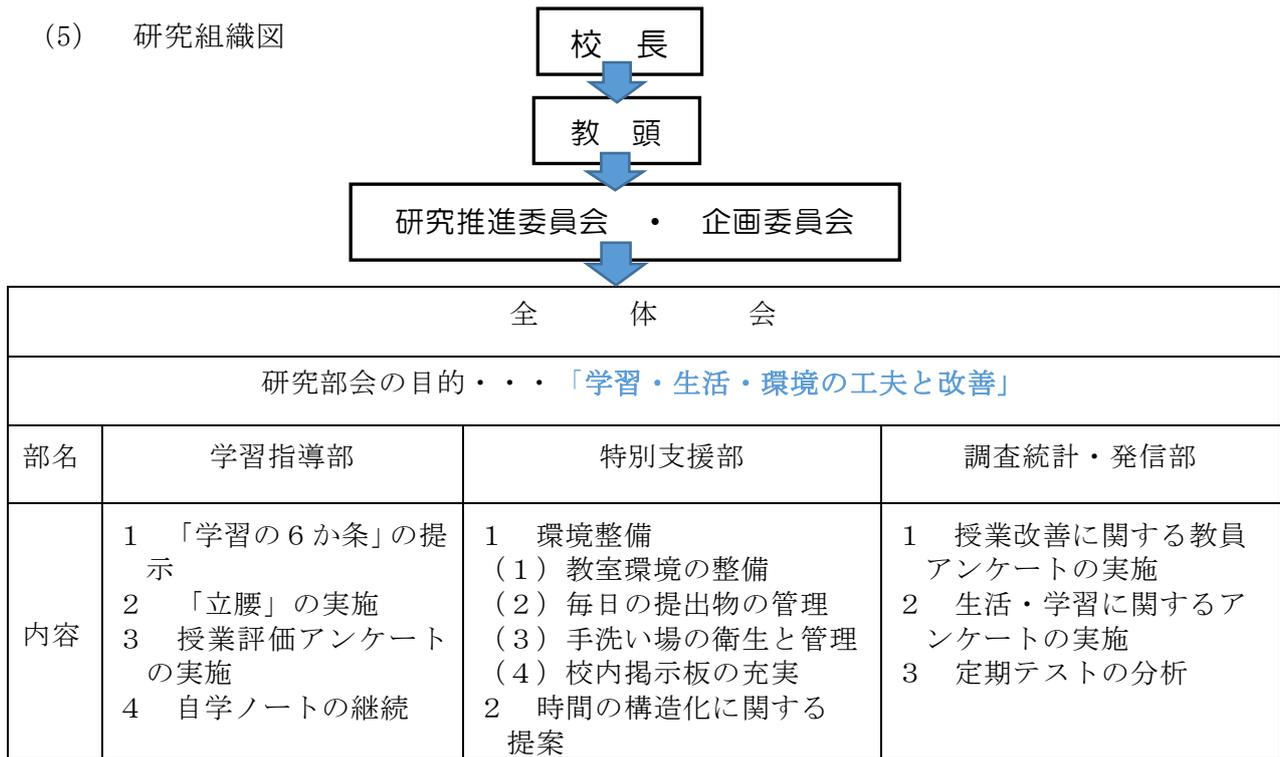
### (3) 仮説

各教科を中心に、通常学級に在籍する特別な支援を要する生徒を念頭におきながら支援の工夫を行うことで、学習活動への意欲が高まり、基礎学力が定着するであろう。

(4) 研究の全体構想図



(5) 研究組織図



4 研究の実際

(1) 授業のUD化

「授業のUD化」の基本的な考え方は、「より多くの生徒にとってわかりやすく、学びやすく配慮された教育のデザインである」というものである。特別に支援が必要な生徒にとってわかりやすい授業は、特別支援の必要性の有無にかかわらず、学級のすべての生徒にとってもわかりやすい授業ということになる。

このような観点に立ち、「わかりやすい授業」を目指し、実践してきた。

<考え方>

本校の実態

- 授業中に落ち着かない
- 授業に集中できない
- 手遊びをしてしまう
- 板書を写すことに時間がかかる
- 他者とのコミュニケーションがとれない
- 思ったことをすぐに発言する



目指す授業

**ユニバーサルデザイン**

- どの子ども考えられる工夫
- どの子ども集中できる工夫
- どの子ども守れるルール
- どの子ども分かりやすい工夫
- どの子ども興味をもてる工夫

- ◎学習に気持ちを向けること
- ◎集中して授業に臨む意識を高めること
- ◎学習内容の理解を深めて学力の定着を目指すこと

①授業改善の視点

授業改善に取り組むにあたり、誰でも参加できる授業について全職員で協議し、研修を深めた。本校の実態や期待される効果に鑑み、特に以下の5点に絞り込んで

取り組むこととした。

<授業のUD化のキーワード>

- \*ねらい（今日の課題）を明確に示す・・・・・・・・・・①焦点化
- \*聞く（理解する）時間を充実させる・・・・・・・・・・②視覚化
- \*学びの過程を互いに分かち合う場を設定する・・・・・・・・③共有化
- \*授業のはじめに見通しを伝える・・・・・・・・・・④時間の構造化
- \*個に応じた支援のための授業研究を丁寧に行う・・・・・・・・⑤つまずきの予想  
(特別に支援が必要な生徒へのケア)

ア 焦点化

「焦点化」とは、授業のねらいや活動を絞ることである。付けたい力を精選して授業を行うことが生徒の学力定着には重要となる。

そこで、生徒に付けたい力を見極め、シンプルな授業にするため以下の取組を行った。

<具体的な取組> 目標や学習を絞ることで、生徒が学ぶことを明確にする。

- 「めあて」は、生徒に迷いが生じないよう学習

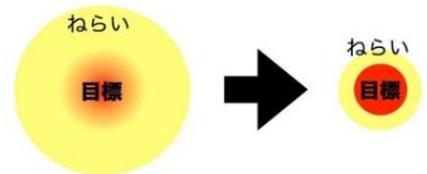
<イメージ図>

内容を教員が絞って設定する。

- 「山場の場面」を考え、そこにつながるよう

「めあて」を設定する。

- 生徒が「めあて」と「山場」を明確に理解できない授業の組み立てでは、メタ認知ができないためそれらのつながりが明確になるようにする。



イ 視覚化

「視覚化」とは、授業の流れを視覚化し、視覚的な理解を重視した授業づくりのことである。授業中の指示を口頭のみではなく、可視化することで生徒がすべきこと等を視覚的に理解できるよう手助けしていく。

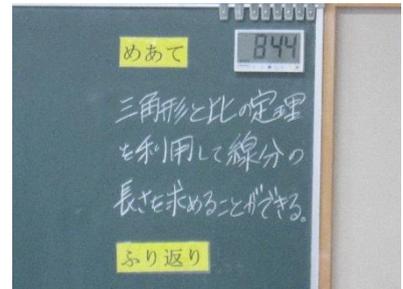
そこで、具体的には以下の取組を行った。

めあての提示

<具体的な取組> 生徒の「考える」「話し合う」「まとめる」等の時間を確保する。

- 説明の際には、映像や具体物を示すことで、指示のポイントが一見して分かるように工夫するとともに、教員の不規則発問やむだな説明を減らす。

- この授業で、何を学習するのかをわかりやすく示し、生徒がイメージしたり、思考したりできるようにする。(ICT機器の有効活用)



ウ 共有化

「共有化」とは、一人一人の学びを広げ、互いの考えを理解し合うことである。互いの考えを伝え合ったり確認し合ったりすることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。理解が不十分な生徒は自分の意見に足りない点を補うことができる。

そこで、共有化の目的・方法を確認し、以下の取組を行った。

<具体的な取組> めあてに関わる理解の過程を分かち合う。

- 主発問に対してペア活動や班活動で考える場面を仕組む。

- 「めあて」に関わるペア活動や班活動で教え合う場面をつくる。

○活動を通して、理解が深まることや集中して取り組めることを実感させる。

○意見発表を通して、学び合いを全体に広げ、学び合いの組織化を図る。

#### エ 時間の構造化

「時間の構造化」とは、授業の流れを生徒に可視化して提示することである。「今、何をしているのか」「次に何を



するのか」という授業の展開を知らせることで、授業のゴールを見据えて能動的に授業に参加できる。そこで、以下の取組を行った。

＜具体的な取組＞ **学習に対する見通しをもたせ、授業に集中できる環境をつくる。**

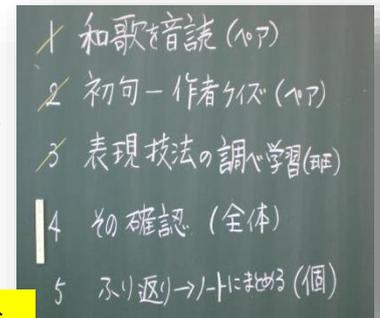
○「学習の流れ」を知ることで、生徒はめあてに向かって安心して活動ができる。

○ペア活動や班活動など、学習の形態も生徒に示すことで具体的な活動が理解できるとともに、指示された活動にすぐ取り組むことができる。

○活動の目安にそれぞれの時間を明記することで、活動に集中して取り組めるようにする。

**学習の流れ提示**

○一つの活動が終わるたびにマグネットを動かしたり、終わった活動の番号に斜線を入れたりすることで、前後の学習活動同士のつながりが明確になり、次の活動は何かを確認できる。



#### オ 生徒のつまずきを予想する

「生徒のつまずきを予想する」とは、生徒の実態把握を確実にし、どの生徒がどの場面でつまずくか、またその要因がどこにあるかを予想し、その生徒に合ったつまずきの対策を準備しておくことである。

生徒の具体的な姿を想像しながら、授業構築を進めるため、以下のことに取り組んだ。

＜具体的な取組＞ **個に応じた支援を考えた授業展開とし、生徒の理解を深める。**

○「配慮を要する生徒への手立て」と、「その他の生徒のつまずき」を予想して授業に臨む。

○「めあて」から始まる授業の展開の中で、どの場面でもどのような「つまずき」があるかを授業者が予想することでめあてから逸れない活動をさせることができる。

○生徒の反応を予想しているので、授業者に余裕が生まれ、生徒の活動により目が行き届く。

#### ② 学習指導案の工夫・改善

##### ア 指導案の展開例

##### ○UD化の工夫

**授業の展開で設定している工夫点を具体的に明記する。**

焦点化・・・

視覚化・・・

共有化・・・

○抽出生徒について

配慮を要する生徒に、どんな配慮をするかが分かるようにそれぞれ文章化する。  
 A・・・  
 B・・・

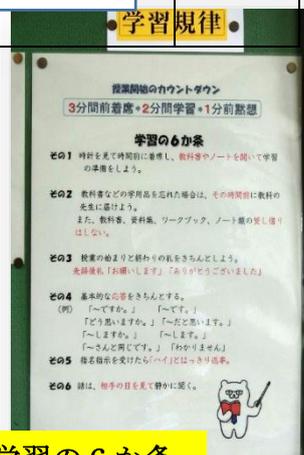
過程	学習活動 予想される生徒の反応	予想される つまずき	○指導の工夫 ☆UD的手立て	備考
導入 ○分	めあて		「めあて」と「振り返り」は一致させる。	
展開 ○分	基礎課題		山場はここ。山場から逆算して展開を組み立てる。	
	活用問題			
振り返り ○分	振り返り			

イ 留意点

配慮を要する生徒を抽出し、個々に合った具体的な支援の手立てを立て、生徒の学びを支えていく。授業の流れを教員が組み立てる際に、「UD化の視点」を取り入れ、どの生徒にも学びやすい展開であるかどうかをチェックする。

ウ チェック事項

- めあては、「身に付けさせたい力」を生徒が理解できるように考えられているか。(焦点化)
- 教員の指示・説明・発問は明確であるか。(焦点化)
- 「学習規律」が生徒の共通の約束事になっているか。(ルール of 明確化)
- 自分の考えをもたせるためのステップがあるか。(基礎・活用など)
- ペア活動や班活動などの話し合い活動を取り入れているか。(共有化)
- めあてと振り返りを明確に位置づけているか。(めあてと振り返りの整合性)
- 生徒のつまずきを予想して授業に臨んだ実践結果はどうであったか。
- 生徒自身が、「～することができる」というめあてに対して「～することができた」という自覚を促す取組が入っているか。(メタ認知)



学習の6か条

(2) 教室環境のUD化

教室には、たくさんの掲示物があり、さまざまな学習道具や部活動に関する道具がある。また、日々やりとりする生活ノートや各教科の課題ノートなど毎日の提出物はいくつもある。これらに関してひと工夫することで教室環境は大きく変わる。整然として配置に配慮している教室環境とルールのある空間は、毎日生活する生徒にとって安心感を育み、落ち着いた気持ちにさせるねらいがある。落ち着きのない生徒や特別に支援が必

要な生徒が一定数存在する本校にとって、UD化の視点に立った教室環境の整備は大切な取組である。

### ①ねらい

落ち着いて学習する環境を教室中心に整えることにより、授業に集中しやすい環境づくりを目指す。



### ②具体的な取組

- 何をどこにしまうのかをルール化する。
- 何がどこに掲示されているか見出しをつける。
- 準備物は指示カードなどで視覚的に掲示し、誰もが目で見てわかりやすく伝える。
- 毎日の提出物を表示してある決まったかごに入れる。

提出物別に用意されたかご

### 英語科授業（発表のようす）

### (3) 人的環境のUD化

教育のUD化の中で授業の土台となるのが「人的環境のUD化」である。教室にいる生徒同士が安心して「わからない」「できない」と言える雰囲気があるのは大切なことであり、授業においても、周りの反応を過剰に気にすることなく意見を伝えることにもつながる。さらに、ペア活動や班活動などのコミュニケーションを必要とする活動を円滑に進める一助となる。日々の積み重ねにより「支持的風土」をつくり出したり、人的UD化を進めたりする中心は教員である。本校では、生徒の気持ちに寄り添い、心を育てることで学校に落ち着きを取り戻した経緯があり、「わからない」「できない」という生徒の気持ちに寄り添うことを大切にしてきた。現在も、教員の支えを必要としている生徒がいることを考えると大切な取組である。



### ①ねらい

秩序があり、安心して過ごせる温かい雰囲気の学級・学年づくりを目指す。

### < 2年生の学習の悩みと3年生からのアドバイス >

### ②具体的な取組

- 配慮すべき生徒をはじめとして、どの生徒にも教員の温かさが伝わる声かけをする。

（生活ノートのやりとり、学年・学級通信での励まし、生徒の心がほぐれる掲示物）

- 秩序のある学級・学年を目指した集団づくりをする。

（リーダーの育成、「行事は生徒の手で」の共通理解と実践、専門部活動の活性化）

- 温かく共感的な雰囲気を目指し、生徒間のつながりづくりを仕組む。

（学習に関する他学年との交流、学校をよりよくするスローガンづくりと発信）

- 意図的な話し合い活動を設定し、生徒同士の交流を図る。（授業、短学活）



(4) 学力調査の分析に基づく課題改善

1) 課題改善シートの活用

○各教科の結果を分析し、改善策を実践する。 例：国語科

平成30年度 3年生学力の課題改善 [ 国語科 ]

分野別正  
答率の比  
較 (%)

A問題	話す・聞く	書く	読む	言語事項	全体
自校					
県					
全国					
B問題	話す・聞く	書く	読む	言語事項	全体
自校					
県					
全国					

1 今年度の全国学力学習状況調査の結果から



【成果】(特に正答率が高い◎ 正答率が高い○)  
例 ◎A 6二 話し合いの話題や方向を捉え、  
的確に話す(記述) + 18.0

【正答率が高い問題から3～4問挙げる。】

【重点課題】

例 ①A 5二 情報を整理し、内容を  
捉える(短答) - 9.2

【陥没が顕著な問題を2～3問挙げる。】

2 重点課題についての改善策

【重点課題①の改善策】

例：文章の中の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見を読み分ける学習を行う。

3 学校全体で取り組む「共通実践事項」

例：各教科や体験学習、修学旅行などの取組の際に作成するレポート等では、序論・  
本論・結論など、展開を意識させてまとめさせる。

2) 「共通実践事項」の共通実践

「課題改善シート」の「3 学校全体で取り組む共通実践事項」をまとめ・協議し、  
全職員の共通理解を図り、各教科指導や学級活動の中に意識して取り入れていく。

例1：「考える力」の育成

○ペア活動・班活動を活用して、教え合い学習に取り組ませる。「人に教える」経  
験をさせることで、「深い学び」にしていく。

○数量関係の比較をする場合、図に表して視覚的に捉えやすくして考えさせる。

## 例2：「発表する力」の育成

- 総合的な学習の時間等で調べ学習のスキルを身に付けさせる。
- 根拠を明らかにして説明させる問題に取り組ませる。

## 5 成果と課題

### (1) 研究の成果

- アンケート等での実態把握に基づくUD化の研究授業と授業研究を積み重ね、研究に基づいた授業展開を意識した授業実践を進めるなど、教員の意識の変容が見られた。
- 教科の壁を取り除くため、全教科で共通のUD化の視点（焦点化・視覚化・共有化・時間の構造化・つまずきの予想）を設定し、他教科の取組を参考に授業実践に取り組んだ。各教科の工夫点を授業に取り入れることで授業改善につながった。
- 生徒へのアンケートを基に、授業の中で必ず意図したペア活動や班活動を仕組むことに努めた結果、授業の内容が分かるようになったという声が増え、生徒自身の授業に対する意識が向上した。



### (2) 今後の課題

- 学習規律の定着に向けて生徒会活動とリンクさせながら継続した実践を進めていく。
- 学力向上を目指した授業内容の質の向上を図ることに力を入れる。例えば、山場の設定に伴う発問を工夫したり、明瞭で簡潔な説明内容の工夫を行ったり、発表による生徒の意見を次の生徒へとつないだりして発問の「問い返し」の工夫を行い、学力の定着を図る。
- どの生徒も「分かる、できる」授業づくりを念頭において授業のUD化を進めながら、ペア学習や班学習、発表の仕方など細かい指導を行い、さらに集団の質の向上を図っていく。同時に、複数の教員の目によるアセスメントを基に、授業の中で特別な支援が必要な生徒に適した個別支援の在り方を研究する必要がある。
- 2年間の研究で終わることなく、組織化した研究を多方面から継続して取り組み、今後も学力向上を目指した授業改善の取組に力を入れていく必要がある。

## 6 おわりに

本校生徒は、全国学力・学習状況調査結果を見ると、自己肯定感が低く、それがかつての荒れの原因の一つともなっていた。3年前から「開発的生徒指導」の手法を取り入れ、生徒の思いに寄り添う姿勢で生徒理解に努め、学校行事等を生徒の手で取り進めさせる中で、褒め、励ますことに全職員で取り組んできている。生徒理解による生徒指導と、すべての生徒が「分かる、できる」を目指すUDの視点に立った授業改善は車の両輪とも言える取組であり、今後も継続していく必要性を感じている。取組の成果を挙げるには、全職員が一丸となって推し進める姿勢が最も大切であるという思いを共有しながら研究を進めていきたい。